

[18\_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :  
18(2)

<https://doi.org/10.15017/17986>

---

出版情報 : 図書館情報. 18 (2), pp.37-52, 1982-07-20. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :

九州大学附属図書館報

# 図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 18, No. 2 (1982, 4~6)

## 目次

・教養部分館長就任のあいさつ	37
・筑前筑後の田舎版	38
・ペラ文庫目録覚書	40
・昭和56年度特別図書一覧	43
・図書整理業務第2次システム	44
・外字検討委員会	44
・端末奮戦記	44
・昭和57年度図書館開館スケジュール	45
・オンライン情報検索	46
・新医学図書館開館	48
・文献複写利用統計	48

## 教養部分館長就任のあいさつ

上野清太郎

中村前教養部分館長のあとを受けまして、私が分館長を命ぜられ早くも2ヶ月が経ちました。今更ながら浅学菲才の身がうとましく、日毎にその責任の重大さを痛感致しております。それでも幸いに教養部では何事でも相談に乗っていただける各専門分野の諸先輩・諸先生に囲まれていて、御援助・御指導をいただけますことを有難く感謝致しております。また業務主任・3人の掛長さんを中心にチームワーク良く、しっかりと纏って楽しい雰囲気職場を作りあげ、その中で業務に精励しておられる職員の皆さん方 — どなたと話しても図書館の仕事に大きな喜びと、また専門職員としての自負を持っておられる — と一緒に仕事をさせていただけますことは、私にとりまして真に得難い勉強の機会だと感謝致しております。



教養部分館は旧制福岡高等学校の図書館を、教養部発足以来乏しい予算の中から、先輩諸先生方が情熱を込めて営々と拡張・整備・充実を計ってまいられたものであります。中村前分館長、奥田前々教養部長の大変な御努力と岡村前図書館長の御尽力とが実を結びまして昭和55年4月に立派な新館が落成し、歴代の教養部分館長はじめ諸先生方の念願は叶えられました。更に中村先生の御指導の下に運営面も面目を一新し、分館の基礎は確立致しました。開館は平日20時、土曜日16時30分までと時間延長になり、開館日数も大巾に増しまして、年間の開館総時間数では従来に比べ約60%増になっております。それにつれて利用者数は3倍余となり、閉館時間まで学習する学生も連日であります。昨年末に視聴覚室も一応整備されましたが、A・V室等まで整備されれば利用者の中も一段と広がるものと期待されます。

一方情報社会における学術情報資料の利用・蓄積・保管についての全国的な体系として、学術情報システムのネットワーク形成が進められております。九州大学図書館は北部九州地区のセンター館としての機能を果たせるように、業務の電算化・機械化が着々と進められています。教養部分館もその端末館として業務の機械化が漸次進んでおります。それに従って従来の方式からの切り替えに伴う膨大な処理作業、あ

るいは開発・推進・研究等の負担が大きくなり、掛員の皆さんは大変苦勞しています。将来のあるべき姿に一日も早く到達したいと頑張っていますが、何分度重なる定員削減でやせ細った現在の分館の職員数では日常業務さえ停滞が危惧される状態です。十分な対応をする弾力性がなくて困っております。無力にして徒手傍観するだけの私も胃が痛む思いです。概算要求に出されているように定員が充足される日の一日も早いことを念じて止みません。閲覧掛では機械化による業務のスピードアップでサービス向上という効果も現れて喜んでいますが。然し20余万冊に及ぶ蔵書の機械化への手当ては果たさねばならぬ目前の難業務です。受入掛・目録掛でも機械化が進んでいきますが、破綻なく機械化ができるか、またその方策に頭を痛めております。何とか旨くこの難関を乗り越えて、図書館業務が新方式にて順調に運営される日を早く迎えたいものです。

話は小さくなりますが、この4月の間だけ3階開架閲覧室の入口にレファレンス・コーナーを設けて新入生のために特別サービスを試みて貰いましたところ、相当数の相談・反応があつて担当者も有意義な試みであつたと喜んでおりました。小さな事でも利用者の皆さんに喜んでもらえるものがまだあると思います。少しずつでも探し出していきたいと思います。

それに、昨秋進学するまで頻繁に教養部分館を利用していた学生の、当時掛員の皆さんに大変親切な対応をしていただいたことに対する感謝の気持ちを纏々述べた御礼状が図書館に寄せられていたのを読ませていただいたことがありました。掛員の皆さんに謝意を切々と吐露している学生の素直な文章に感激致しますと共に、掛員の皆さんが常日頃から黙々と利用者第一に精進しておられる様子がよくわかり大変感動致しました。

よく見れば なずな花咲く 垣根哉 芭蕉

万事に不調法な私であります、中村前教養部分館長が確立されました運営の基本方針を踏み違えないように、また教養部分館を皆さん方により気持ちよく利用していただけますように、職員の皆さん方と一緒に意を配ってまいりたいと思います。皆さま方の御叱正・御鞭撻を切にお願いいたします。

(教養部分館長)

## 筑 前 筑 後 の 田 舎 版

中 野 三 敏

和本類の書誌学用語の一つに「田舎版」というのがある。即ち江戸期を通じて出版事業の三大拠点であった京都・江戸・大阪の三都以外で刊行された書物類を惣称するというもの。「田舎」は蔑称で面白くないというのか、地方版という言い方もあるが、田舎版の方が何となく親しみ易い気がする。近年折々耳にする「地方の時代」という掛け声の効果かどうかはしらないが、この所盛んな出版史の研究の中に、ようやくにして、右の「田舎版」の研究に当る様な動きが見え始めて来たのは誠に御同慶の至りというべきであろうか。昨年五月には名古屋の市立博物館で「名古屋の出版」と銘打った展示会が催され、板元別に廿四肆、約三百五十点の出品があり、立派な図録も刊行された。続いて今年の一には仙台の市立博物館で、「仙台の出版文化展」が催され、これ又廿三肆、約百七十点の展示を見ている。更に、北陸金沢の出版について柳川昇爾氏の報告が青裳堂書店の「書誌学月報」第八・九号に連載された。名古屋や仙台・金沢の板行物は田舎版とは聊か言い難い程の盛行ぶりであった事は、この企てでも歴然としているが、扱、わが九州は如何なものか。中世末から近世初頭にかけての大内版や薩摩版は暫くおく。藩の出費によって行われる藩版の類は平戸藩や熊本藩等かなりな例を見得るものの、これは要するに費用を藩が持ち、実際の出版作業そのものはおおむね三都の有力な本屋に委ねるもので、即ち〇〇藩蔵版というだけの事、実際にその地方で出版・刊行された田舎版というわけにはいかない。辛うじて長崎には享保頃から竹寿軒、宝暦頃に豊島屋、享和頃から今見屋・大和屋・牛深屋・文錦堂・梅香堂といった板元が存在して、極く幕末には「蛮舶図絵」の様な、見事な極彩色の色摺り版画迄板行する様な勢いを見せてはいるが、是等は大率地区と長崎板画という、いわば御土産商品の製作所であり、板木屋と称すべきもので、未だ本屋とは言い難い。

幕末には立身屋万兵エという御目出度い名前の本屋が出来て、専ら中島広足の著述等を刊行するようになるが、やはり書物という事になると、どうしても一冊三四十丁はあるのが道理で、それだけでも裏表二丁がけの板木で二十枚程は必要となり、その板木代、彫り賃、摺り賃、紙代、製本代更には板木の保存場所等々、ともかくかなりの大資本でなければ動きがとれないのが書物屋というものである。やはり地方都市に出版屋が根付くという事は昔も今もかなり好条件が揃わないと難かしいらしい。しかし出版文化の時代にあっては、何といても版元の存在そのものが一種の文化のバロメーターと見做し得るし、我が住む町はやはりよそよりは文化的であって欲しいと願うのは人情というもの。そこで以前から博多を中心とした筑前・筑後辺りの田舎版の存在に心をとめているのだが、これが仲々思うにまかせぬ状態なのである。

論より証拠とやら、まづ乏しい所見本を挙げて見よう。

一は黒田藩侍読月形鶴巢の詩集「山園雜興」。半紙本一冊で見返しに「清賞堂藏梓」とあるのは月形家の藏板という事か。奥付に「天保三年壬辰九月 書舗 筑前博多麴屋番萬玉堂次助 江戸日本橋通二町目山城屋佐兵衛」とあって、萬玉堂なる本屋の存在を確認出来る。一応江戸の名家玉山堂山城屋佐兵衛と合板の形をとるが、本の出来具合は山城屋で仕立てたにしては全体の彫りが甘く、何よりも田舎版特有の摺り工程に於ける墨付きの悪さや、ニカワの加減に拠るかと思われる墨色の悪さが目立っていて、恐らくは博多で摺ったものと見てよかろう。

二に、一と頂度逆の工程になるかと思われるものを挙げる。益軒先生の著「君子訓」半紙本三冊。架藏本は元袋がついており、「天保壬寅(十三年)新刻 筑前夜須郡 佐藤氏藏版」の文字が左側に摺られている。奥付はもう少し詳しく「天保十三年壬寅孟秋新刻 / 筑前夜須郡曾根田村農夫 / 佐藤藤右衛門藏版 / 筑後久留米 / 彫刻 中澤嘉右エ門」とある。縹色表紙に、鼠色地布目模様入りの題簽を用い、絹のハナ切れ迄備えた丹念な仕立てで、彫りも摺りも墨色も申分のない立派な出来である。巻頭に当時の大学頭林銚の序あり、巻末には月形鶴巢・江藤良東・広瀬淡窓・草場佩川の跋が備わって、何れも私財を投じて本書の刊行を図った筑前夜須の豪農佐藤氏の挙を顕賞する。即ち佐藤氏の私版であり見事な造本である。彫りは奥付にも久留米の中沢嘉右エ門と明記されていて疑い様もないが、恐らく摺りや製本は佐藤氏の財力によって、遠く三都のしかるべき本屋に依頼されたのではなかったろうか。当時これだけの造本の出来る本屋が筑後にありとするならば、必らずや他にも同様に見事な出来の数本を見得る筈と思えるからである。文化八年刊「三教祖論異表伝」、同十年刊「相学提要国字解」は何れも筑後の岩色石庭の著、久留米の「紫琳台藏版」「東都彫工 山口墨鷹謹刻」とある。この場合は江戸の彫師山口墨鷹が久留米へ下って来て彫ったのか或いは逆に江戸へ上せて山口に彫らせ、製本させたのか、本の出来具合いから見てやはり後者かと私は思っている。博多漢詩人の詩華集「石城唱和集」大本二冊も、本の性格から言えば当然博多版であるべき所見返しに「玉蘭堂藏版」とあって奥村玉蘭の出資によって出来たものである事は明らかだが、奥付には<京寺町二條南 / 書林 野田治兵エ>とある京版。何れにしてもキッチリとした出来栄えのものはどうしても三都のものに多い。

三に田舎版の典型の如きもの一部。題して「安産手引草」とあり、半紙本九丁だけのもの、表紙も共紙で二ヶ所をコヨリ綴じにしたパンフレットの如く、彫り・摺り・墨色の三点共に田舎版の欠点をさらけ出したもので、見ただけで素人出版の施本である事がわかる。内容も題名通りの家庭医学の手ほどきで、施本にふさわしい。巻末に次の如くある。

彫刻工 はかた 川はた 越後屋藤五郎

○版本仕出し人 博多 野村久治

○紙仕出し人左之通

- |            |            |              |            |
|------------|------------|--------------|------------|
| ・ 鳥飼村 横地氏  | ・ 菟野村 横地氏  | ・ 本数五百冊 野村久治 |            |
| ・ 博多 大山忠平  | ・ 同 野村友助   | ・ 同 磯貝治兵エ    | ・ 同 藤谷勾當   |
| ・ 同 鏝物師甚兵エ | ・ 同 米屋喜八郎  | ・ 同 綿屋平吉     | ・ 同 米屋宗七   |
| ・ 同 萬屋惣平   | ・ 同 紺屋弥作   | ・ 同 紅粉屋正右エ門  | ・ 同 鶴田惣右エ門 |
| ・ 同 開屋正次郎  | ・ 同 角屋正右エ門 | ・ 同 八百屋半七    | ・ 同 綿屋次助   |
| ・ 同 魚屋清次   | ・ 同 角屋次八   | ・ 同 米屋八右エ門   | ・ 同 越後屋藤五郎 |

ここに言う彫刻工は所謂の板木屋と称する職人であろう。手近くは商店の看板から社寺の掲額、ひいては太宰府天満宮や箱崎宮等の御土産代りの見取り図板行等に及ぶ。越後屋は或いは櫛田さんの御用等も勤めたかもしれぬ。板木は板木、紙は紙、それぞれ米屋・八百屋・綿屋・魚屋互いに持ちよつての出費で出来上る施本、粗末な物ではあるが、これこそ田舎版のこころ意気というものでもあろう。

四に「新板早繰年代記」と題する大本一冊。本文から元治元年の刊行とわかる。

扉裏に  
 筑前州博多之住当時  
 彫刻師 豊前中津古博多街 藤 吉右エ門  
 何某元滞留中

---

安達氏 豊後州国東郡高田住鍛冶屋街  
 蔵板 亀屋 四郎兵エ

とあって博多の彫師藤吉右エ門が中津滞留中に豊後高田の薬種商亀屋こと安達四郎兵エに依頼されて彫り上げたものという。博多版というわけではないが、こうした渡り歩きの職人によるものもある所が面白い。これ又摺り、墨色の二点に於いて田舎版の特徴を明示する。

五に、これは九州工大の石川八朗氏御所蔵の俳書一冊、題簽に「俳諧遺筆誌 完」とあり、扉に「偷聞室黙雷居士追善」「小倉 柳翠園嵐歩輯」とあって文政八年小倉藩士黙雷の歿に門人嵐歩が追善集を編んだもの。巻末に「小倉彫刻所 藤可堂木齋」とある。木齋は集中にも発句一句入集しており、黙雷門の一人でもあったらしい。この書もまさしく彫り、摺り、墨色の三点に田舎版の特色を立派に有している。一般に俳諧は最も地方的な文芸でもあったので、多くの地方版がありそうなものであるが、編者は地方俳士でも刊行は三都の本屋にゆだねる場合が多く実際には殆んど見得ない。但し板式等から言ってそれらしい物は二、三あるが、奥付や刊記に明記するものがないので確認出来ないという事でもある。本書の如きその稀な例である。

以上乏しい見聞を記して無知をさらけ出したが、取えてこのような挙に出たのは一つの日論見あつての事でもある。というのは、初めにも記した如く、最近ようやく地方版の研究が緒につき始めた。そしてそれは先づ何はさておき、実際にその地方で刊行された書物の現物を集める所から出発せねばならぬ事言う迄もない。そしてそれは当然のこと、その地元の図書館なり、研究機関なり、更により手取り早くは、地元のしかるべき古本屋さんりの手で行われるのが常道であろう。論より証拠、先述の名古屋版は藤園堂、仙台版は菅野という地元根づいた古書肆の手によって集められそれを地元の博物館が補強したものが大半を占める。翻って我が町福岡にはそうした収集の存在を聞いたことがない。実情は今では残念ながら遅すぎるといふべきなのであるが、ここで筆者が恥をかけば、それ見たことかと諸方から知見を寄せられる可能性に大いに期待するからの事である。

因みに近世期地方版についての最も纏った考察は「長沢先生古稀記念図書論集」に寄稿された中村幸彦先生の「近世地方版研究の提唱」と題する論である。宜しく御参照願ひ度い。

(文学部助教授)

## 『ペラ文庫目録覚書』

松 田 高 史

ペラ文庫の冊子目録が完成してから1年が過ぎた。<sup>註1)</sup> この間に、国内での文庫利用者の数が急増しただけでなく、欧米の名だたる研究者からも驚きと称賛の辞が寄せられたことは、目録編纂に関わった1人としてうれしい限りである。しかし一方で、目録編纂当時の苦勞の思い出は、記憶から薄れていくばかりである。幸い機会を与えられたので、ここに、冊子目録が出来あがるまでの苦心の一端を、カタログの目からではなく、研究者の立場から紹介することにしたい。この一文が、冊子目録利用の際の手引きとなれば、幸いである。

単本・別刷・雑誌を合わせて3,000点近い膨大なコレクションの目録作業は、もちろん中央図書館洋書目録掛のスタッフによって進められたが、分類作業等に蔵書内容についての専門的知識を要したため、森教授を始めとする文学部西洋史学研究室のスタッフが全面的な協力をし、特に冊子目録の編纂については、

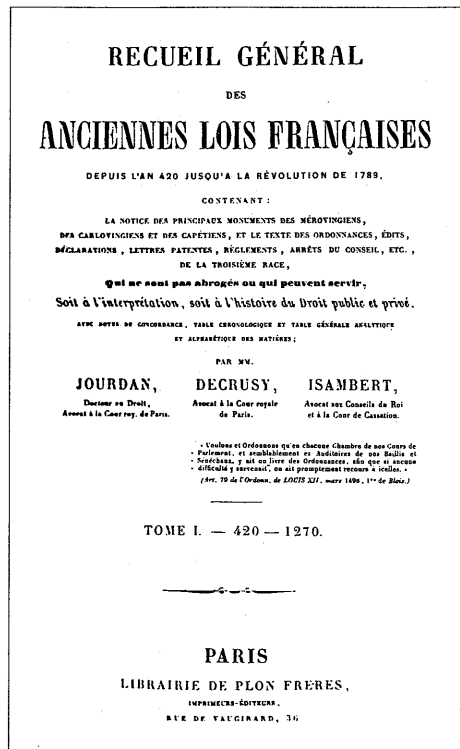
西洋史学研究室が実質的な責任を負った。筆者も研究室側の要員として、1年半余り図書館に通ったわけであるが、どうもこのお手伝いが、かえって目録作業の進捗を、当初の予定の倍近く遅らせる原因になったようである。というのは、冊子目録に、ペラ文庫の特色をできる限り反映させようとする我々研究室側の要求と、図書館側のルーチン・ワークとがかみ合わず、このギャップを解消するために多くの時間を要したからである。しかし、いささか弁解じみるが、図書館の作成する目録カードをそのまま冊子目録の原稿として使用する以上、このギャップはどうしても埋めておかなければならなかった。

第1のギャップは、目録法に生じた。図書館としては、ペラ文庫といえども九大の蔵書の一部である以上、現に図書館の採用している目録法、すなわち英米目録規則に従って目録せざるを得ないのであるが、一方で我々の側は、シャルル・ペラ教授の旧蔵書、すなわちペラ教授の専門に則して系統的に集められた蔵書がもつ体系を保持するためには、ペラ文庫独自の目録法があつて然るべきと考えたし、実際その法則性に従う方が、この文庫を利用する、おそらくはその層が非常に限定される研究者の便にかなうものであることを疑わなかった。とはいえ、こと目録法に関しては、我々素人が専門のカタログの領分に口をささむ余地はなく、結局英米目録規則に準拠することに落着いたのであるが、その結果、以後我々は、第2・第3のギャップに悩まされることになった。フランス語の文献・論文を主とする蔵書を英米語による目録法で目録する矛盾、これ以上増加することのない、いわば閉じられた蔵書を九大の他の一般の蔵書と同じレベルで目録しなければならない矛盾が、それである。

典型的な例を以下に示そう。右図は、研究者の間では編者の1人の名をとってイザンベール (Isambert) 版と呼び慣らわされている、29巻からなるフランスの代表的な王令集の最初の巻のタイトル・ページである。この王令集を英米目録規則に依って目録すると、カード例1)のようになる。規則では、法律関係出版物は、原則としてその法律が適用される管轄区域名 (France) に、法律の内容を示す一定の副標目 — もちろん英語型 (Laws, statutes, etc.) である — を付した標目のもとに記入を行わねばならないからである。しかし、この王令集のなんたるかを知る者にとってこの標目はなんとも奇異であり、このカードから当の王令集にたどりつける研究者は、おそらく1人としていないであろうと思われた。さすがにこの類の標目には我々も妥協できず、「談合」を重ねて、書名主記入とすることで我々の主張を受け入れてもらうことにした (カード例2)<sup>注2)</sup>。

幸いこの王令集はペラ文庫にしかなかったので、標目の問題についてはこれで一件落着となったが、たまたま同じ図書がすでに九大の蔵書中に存在した場合には、事はひどく面倒になる。つまり、同じ図書を示すカードが、各々異った標目のもとに記述され、その結果、総合カード中に入れ込まれる際、互いに離れた位置に配列されてしまうからである。このケースにぶつかった時には、やむなく窮余の策を講じることになる。すなわち、カード例5)のような副出カードを作成して、両者の距離をつめるのである。

この副出記入という方法は、上記した様々な矛盾を解決する上で、この上なく便利であった。実際前述の王令集の場合にも、この方法は、有効かつ適切であった。なぜならば、この王令集を利用しようとする研究者の90%以上が、書名からではなく、もちろん France. Laws, statutes, etc. という標目からでもなく、Isambertの名で目録カードを検索するに違ひなく、従って、Isambertの名を副出することでこの王令集の検索効



率・確率を、ともに100%に近い数字に高めることが可能だからである(カード例4)。

しかしながら、この方法にも思いがけない盲点が存在した。目録規則によれば、著者表示エリア<sup>注3)</sup>に記述される著(編)者は3人までで、4人以上になると最初の1人のみが記され、その他は…[et al.]と全部省略される。一方、ユニット・カードシステムでは、副出記入とする事項は、必ず基本記入の記載事項の中から選定され、これを規則に準じた標目形及び記述にしてユニット・カードの上部に記載しなければならない。ゆえに、前述の王令集の編者が仮に4人であった場合、しかもIsambertが筆頭編者でない限り、彼の名は副出記入の標目とはならず、結果的にIsambertの名からの検索は不可能になってしまうのである。実のところ、この原則を忠実に守ることで、ペラ教授共(編)著の目録カードにペラ教授の名があがらないという事態に直面した時、我々の当惑がいかばかりであったか、お察しいただけるであろう。これは、どうしても規則を曲げてもらう以外になかった。

ペラ文庫には、ペラ教授の旧蔵書であるがゆえに、通常では取扱うことのない種類の図書が多数含まれていた。目録作業を通じて、両スタッフのもてる力がフルに発揮されたのは、まさにこの種の図書の目録においてであった。たとえば、ある文献の中からパラリと落ちた一葉の紙片、それが、別の本からペラ教授が破り取ってはさみ込んだ当該文献の書評であれば、これは分綴本としての別個の目録が必要であった。別刷の中には元の図書の情報を欠くものが少なくなかった。これらの図書の目録では、元の図書との関係の明示が重要な要件であるので、可能な限りそのデーターを求めねばならないが、ペラ文庫ほどの専門性の高い蔵書になると、決して不備とはいえない図書館のツール類をもってしても、十分な情報が得られないことが多かった。その場合には、次に我々研究室側のツールが総動員されることになるのだが、ただここで筆者は、こうした通常的手段ではどうしても困難であった情報の入手を可能にしたツール類が、ペラ文庫それ自体にもっとも多く内蔵されていたことを特に記しておきたい。<sup>注4)</sup>まさにこの点にこそヨーロッパの碩学が築いた蔵書体系の基本特徴が存するからであり、筆者は、この蔵書の目録作業を通じて専門研究におけるツール類の重要性を再認識させられた次第である。

ともあれ、こうした苦労を重ねてペラ文庫は、全国の研究者の利用に供される態勢になった。是非とも広範な活用を期待したい。

注1) ペラ文庫については、文学部森教授執筆の紹介記事(「ペラ文庫」図書館情報 Vol. 14. No. 4, 1978. 10—12. 他)を参照されたい。

注2) 但しカード例3), 4)のような標目の補記については、配列の第1次要素にはならないことから、無理に abbé de Saint-Denisあるいは roi de France とはしなかった。

注3) 目録カードの記述部分のうち、書名のあとに続けてその著作の著(編)者名が記載される部分をさす。但し著者名が標目と同一である場合には省略される。

注4) カード例7)は、1枚の基本カードに同一著者による3件の書評が目録されている。もちろん第2・第3の書評は著者+書名の形で副出される。この書評の元の図書の情報は、明らかにならなかった(カード例8)の場合のように他の文献で元の図書の情報が得られた時は、その出典を明記するが、ここに出典として示されている文献は、ペラ文庫中のものである。

(文学部助手)

<p style="text-align: right;">例 1)</p> <p>France. Laws, statutes, etc.            Recueil général des anciennes lois françaises, depuis l'an 420 jusqu'à la Révolution de 1789; contenant la notice des principaux monuments de Mérovingiens, des Carlovingiens et des Capétiens, et le texte des ordonnances, édits, déclarations, lettres patentes, règlements, arrêts du Conseil, etc., de la troisième race, ... par Jourdan, Decrusy [et] Isambert. Tom. 1-28, table.            Paris, Plon frères [1821-1833]            29 v. in 30. 21 cm.            Vol. 12 has 2 parts.</p>	<p style="text-align: right;">例 2)</p> <p>Recueil général des anciennes lois françaises, depuis l'an 420 jusqu'à la Révolution de 1789; contenant la notice des principaux monuments de Mérovingiens, des Carlovingiens et des Capétiens, et le texte des ordonnances, édits, déclarations, lettres patentes, règlements, arrêts du Conseil, etc., de la troisième race, ... par Jourdan, Decrusy [et] Isambert. Tom. 1-28, table.            Paris, Plon frères [1821-1833]            29 v. in 30. 21 cm.            Vol. 12 has 2 parts.</p>
<p style="text-align: right;">例 3)</p> <p>Suger, <u>Abbot of Saint Denis</u>.            Vie de Louis le Gros, par Suger, suivie de L'histoire du roi Louis VII. Publiées d'après les manuscrits, par Auguste Molinier. Paris, A. Picard, 1887.            50, 196 p. 24 cm. (Collection de textes pour servir à l'étude et à l'enseignement de l'histoire, 4)</p>	<p style="text-align: right;">例 4)</p> <p>Philippe VI, <u>King of France</u>.            Lettres closes, lettres "de par le roy" de Philippe de Valois [éd. par R. Cazelles] Paris, Société de l'histoire de France, 1958.            160 p. 24 cm.</p>

<p>France. Laws, statutes, etc. <span style="float: right;">例 5)</span></p> <p>Recueil général des anciennes lois françaises, depuis l'an 420 jusqu'à la Révolution de 1789; contenant la notice des principaux monuments de Mérovingiens, des Carolingiens et des Capétiens, et le texte des ordonnances, édits, déclarations, lettres patentes, règlements, arrêts du Conseil, etc., de la troisième race, ... par Jourdan, Decrusy [et] Isambert. Tom. 1-28, table. Paris, Plon freres [1821-1833] 29 v. in 30. 21 cm.</p> <p>Vol. 12 has 2 parts.</p>	<p>Isambert, François André, <u>jt. ed.</u> <span style="float: right;">例 6)</span></p> <p>Recueil général des anciennes lois françaises, depuis l'an 420 jusqu'à la Révolution de 1789; contenant la notice des principaux monuments de Mérovingiens, des Carolingiens et des Capétiens, et le texte des ordonnances, édits, déclarations, lettres patentes, règlements, arrêts du Conseil, etc., de la troisième race, ... par Jourdan, Decrusy [et] Isambert. Tom. 1-28, table. Paris, Plon freres [1821-1833] 29 v. in 30. 21 cm.</p> <p>Vol. 12 has 2 parts.</p>
<p>Mazzoleni, Jole. <span style="float: right;">例 7)</span></p> <p>Wilhelm Heupel, Schriftuntersuchungen zur Registerführung in der Kanzlei Kaiser Friedrichs II. Charles Perrat et Jean Longnon, Actes relatifs à la principauté de Morée, 1289-1300. Jean Longnon-Peter Topping, Documents sur le régime des terres dans la principauté de Morée au XIV<sup>e</sup> siècle. [s.l., s.n., 19--] p. 403-407. 25 cm.</p> <p>Caption title. Detached from another work.</p>	<p>Gidel, Ch. <span style="float: right;">例 8)</span></p> <p>La légende d'Aristote au moyen âge. [Paris, s.n., 1874] p. [285]-332. 23 cm.</p> <p>Caption title. Detached from: Annuaire de l'association pour l'encouragement des études grecques en France, année 8, 1874. Cf. Bibl. génl. des travaux hist. et archéol.</p>

((( 資料紹介 )))

昭和56年度「特別図書購入費」による購入図書について

— 中央図書館 —

昭和56年度の「特別図書」として下記の通り購入しましたのでご利用ください。

昭和56年度特別図書一覧

- |   |  |
|---|--|
| <p>The Accountant.<br/>Vol. 1(1874)-30, 42-50(1914)<br/>(会計誌)</p> <p>Alfabetisch Catalogus von de Boeken en Brochures van het Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis.<br/>2. Supplement. Vol. 1-3. 1979.<br/>(国際社会史研究所蔵書目録)</p> <p>British Parliamentary Papers.<br/>— Colonies General — (IUP)<br/>Vol. 1(1849)-9, 20-24(1886)<br/>(英国議会報告書)</p> <p>Catalogue General des Manuscrits des Bibliothèques Publiques de France.<br/>Vol. 1(1885)-25(1894)<br/>(フランス全国公共図書館手稿総目録)</p> <p>Collier on Bankruptcy. 15.ed. New York.<br/>Vol. 1-7 Appendix 1-3. loose-leaf.<br/>(コーリヤーの破産法)</p> <p>Comprehensive Dissertation Index.<br/>Annual Supplement, 1977(1978)-78(1979)<br/>(米国学位論文総合索引・年刊)</p> | <p>Edelmann, Johann Christian.<br/>Sämtliche Schriften in Einzelausgaben.<br/>Bd. 1(1735)-7/1(1740) 1980.<br/>(ヨーハン・クリスチャン・エーデルマン全集)</p> <p>Environment and Behavior.<br/>Vol. 1(1969)-12(1980)<br/>(環境と行動)</p> <p>Der Gerichtssaal.<br/>Bd. 33(1881)-34, 40-43, 45-51, 53-56, 58, 61-63, 65-70(1910)<br/>(法廷雑誌)</p> <p>J. von Staudingers Kommentar zum Bürgerlichen Gesetzbuch. (BGB) 12. Aufl.<br/>Bd. 1-3, Lfg. 4-6, 9, 12-14, 16, 18, 20-22, 24-26, 28.<br/>(シュタウディングアーの民法典コンメンタール第12版)</p> <p>Law Commission Working Papers. Vol. 1-9.<br/>Law Commission Reports. Vol. 1-10.<br/>Law Commission Digest.<br/>1979. 1 set<br/>(英国法律委員会調査書・報告書・索引)</p> <p>Lhasa Kanjur. (Microfiches.)<br/>(ラサ版 チベット大蔵経一仏説部)</p> |
|---|--|



La Librairie Française Tables Décennales.  
1966-75. Auteurs 1-3, Titres 1-3. 6vols. 1979.  
(フランス書籍目録・累積版)

Library Literature.  
Years 1921/32-1967/77.  
(図書館学文献索引誌)

Multinational corporations; operations and finance.  
Advisory eds.: Stuart Bruchey.  
35 vols.  
(多国籍企業研究叢書)

La Plume: Revue littéraire et artistique.  
No. 1(1889)-426(1914)  
(ブリューム誌)

Reclus, Nouvelle Géographie Universell.  
Bd. 1(1876)-6, 9-19(1894)  
(新世界地理)

La Semaine Juridique.  
Année 4(1942-46)-8(1962-1966) 1980/81  
(法律週報)

Stallbaum, G.: Platonis Opera Omnia.  
Garland Reprint. 1980  
Vol. A-K(1835-1860) 14 vols.  
(スタルバウム編 プラトン全集)

朝日新聞地方版 九州版 (マイクロフィルム)  
大正4年～昭和10年

中国書籍総目録 (全国総目録)  
第1巻(1949)～第13巻(1965) 書名索引付

教育時論 (複製)  
1(明治18)～38(明治27) 1981

四部備要 中華書局編  
仿宋活字 平装本687冊

## ((( 図書館業務電算化ニュース )))

### 図書整理業務第2次システム、稼動開始

図書整理サブシステムでは、4月30日に操作説明会を開催し、オペレーション練習期間を置いた後、5月10日より稼動を開始した。今回の第2次システムは、目録サブシステムとの連動、重複調査機能による既存データ(DB, MARC等)の取込み、継続発注図書の受付管理、セット価格処理、出力帳票の改善等を含むもので、第1次システムの大幅な機能アップを果している。

また、目録サブシステムは、5月17日に和書目録データ作成処理の操作説明会を開催した。引続き洋書についても近日中に説明会を開催する予定である。

なお、これらの説明会には北部九州地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会構成館の担当者も参加した。

### 外字検討委員会を設置

JAPAN/MARC 中やオリジナル目録時に出現する JIS 漢字基準 (C-6226) 外のいわゆる外字の処理については、和書の整理関係では避けて通れない問題である。

登録に要する労力、使用エリアの制限等から一定の基準を設定せざるを得ず、標記委員会を館内関係者で設けて協議し、初期登録に必要な予備作業を行った。

### 端 末 奮 戦 記

永 井 謙

早いもので、われわれのささやかな図書室にも端末機がはいつてから、もう9ヶ月にもなろうとしている。この間、開発班一同の昼夜兼行の奮戦もさることながら、われわれ端末側も、一昨年の10月に始まった購入和雑誌のデータシートづくり以来、それへの対応に追われればなしの何ヶ月かではあった。しかし、

慣れとは恐ろしいもので、最初はやたらにピカピカ光るばかりで、ひどく恐ろしげに見えていたわが端末機も、今では、受付入力に順調に進んで行く時などには、使い慣れていたブック・ヴィジブルやペンと同じように身近で親しいものに感じられてくるから不思議なものだ。

もっとも、最初は失敗もいろいろとあった。処理要求の時に、パスワードに0のつもりでうっかりQを入力してしまって「出ない出ない」と騒いでみたり、出力要求のつもりが処理要求をやってしまって、これまたなぜ出ないのだろうと首をひねってみたり、リストの出力の最中に、つい機械に任せてトイレなど行ったばかりに、用紙がつかえてグシャグシャになって、ひと月分の購入雑誌のリストをオシャカにしてしまったり、今にして思えば、滑稽なミスも随分と多かったのだが、その都度、開発班のだれかれに電話で「モシモシ」とやるのだから、開発班のご苦労たるや、まことに察するに余りあるものがある。

今日ではオツキサマへ人間が行こうかという時代なのだから、図書の整理を、カードや書類の山の中で手作業でチクチクとやるのは、何といっても時代遅れなのであろう。それに、あとからあとから押し寄せる、情報の洪水のことを思えば、今ここで電算化に踏み切ったことは、そして、それがともかくも緒についたことは、われわれの業務を、将来に向けて、大いに前進させたことになるのではなかろうか。

いわゆるコンピュータリゼーションについては、非人間的な単純作業の強化、また、それを操作する人間のロボット化等々、非難の声もまた少なくない。しかし、あらゆる変革に対応し得ぬものは、結局滅び行くものであろう。このたびの変革の主体が、あくまでわれわれ図書館人の側にあることを忘れぬかぎり、この小さな端末が、これからも続く絶え間ない情報資料との奮戦の中で、われわれに、強力で大きな武器として働いてくれるものと思われる。

(法学部図書掛)

## 綾 部 清 香

私たちの職場にコンピュータが設置され、日常業務が機械処理になって、はや1年になろうとしています。最初の頃は機械が思うように動かなかったり、操作ミスで止めてしまったりで、業務が混乱しましたが、今では一応の操作も覚え安定した稼動状況です。コンピュータは、本来複雑なものなのでしょうが、端末の操作となると車の運転と同じで深い知識がなくても決められたとおりにすれば間違いなく動くものだとわかりました。また、キーの押し違い等は、エラー表示で教えてくれるので、割に簡単に入力できます。

この1年受入業務を担当してみて、操作の面より書誌的な判断の方がずっと難しいと感じました。受入で入力したデータは目録や検索に使われることになるので出来る限り正確に入力するよう心がけています。しかし、著者名などで思いもよらない読み方をしたり、角書きや版次の処理に迷ったりで、先に進めないことがよくあり、自分の勉強不足と日本語の難しさを痛切に感じさせられます。

現在は、まだ従来のマニュアル処理も残っていて、仕事の量が増えている部分もありますが、電算化開発の道半ばとのことですから、もう少し様子を見る必要があると思っています。来年の今頃は、機械に振りまわされているか、自在に使いこなしているか、果たしてどういう状態になっているか、不安と期待とが半々というのが現在の心境と言えましょうか。

(整理課受入掛)

## ((( 利用の窓 )))

### 昭和57年度図書館開館スケジュール

中央図書館・医学分館・教養部分館の本年度の開館スケジュールは次のとおりです。

なお、特別の事情により開館時間を臨時に変更する場合は事前に掲示等でお知らせします。

## 記

## 〈中央図書館〉

## 1. 延長開館

平日 9:00～20:00 土曜 9:00～16:30

## 実施日

昭和57年4月3日(土)～7月31日(土)

昭和57年9月2日(木)～12月25日(土)

昭和58年1月6日(木)～3月25日(金)

## 2. 通常開館

平日 9:00～17:00 土曜 9:00～12:00

## 実施日

昭和57年4月2日(金)

昭和57年8月3日(火)～8月31日(火)

昭和58年3月26日(土)～3月30日(木)

## 3. 閉館(閲覧・貸出業務停止日)

毎月1日(但し、1日が土曜、日曜、祝日の場合はその翌月曜日)

## 開学記念日

昭和57年12月27日(月)～12月28日(火)

昭和58年1月4日(火)～1月5日(水)

昭和58年3月31日(木)

(但し、閉館中も自由閲覧室は開室していますので、玄関横の階段から入室して下さい。)

## 4. 休館日

日曜、祝日、年末年始

## 〈医学分館〉

## 1. 延長開館

平日 9:00～21:00 土曜 9:00～16:30

## 実施日

昭和57年4月2日(金)～7月10日(土)

昭和57年9月13日(月)～12月11日(土)

昭和58年1月10日(月)～3月31日(木)

## 2. 夏季開館

平日 9:00～17:00 土曜 9:00～16:30

## 実施日

昭和57年7月12日(月)～9月11日(土)

## 3. 通常開館

平日 9:00～17:00 土曜 9:00～12:00

## 実施日

昭和57年12月13日(月)～12月25日(土)

昭和58年1月5日(木)～1月8日(土)

## 4. 閉館日

毎月1日(但し、1日が日曜、祝日の場合はその翌日)

## 開学記念日

昭和57年12月27日(月)～12月28日(火)

昭和58年1月4日(火)

## 5. 休館日

日曜、祝日、年末年始

## 〈教養部分館〉

## 1. 延長開館

平日 9:00～20:00 土曜 9:00～16:30

## 実施日

昭和57年4月12日(月)～7月10日(土)

昭和57年9月13日(月)～12月25日(土)

昭和58年1月7日(金)～2月28日(月)

## 2. 通常開館

平日 9:00～17:00 土曜 9:00～12:00

## 実施日

昭和57年7月12日(月)～8月7日(土)

昭和57年8月16日(月)～9月11日(土)

昭和58年3月22日(火)～3月31日(木)

## 3. 閉館日(閲覧、貸出業務停止日)

毎月1日(但し、1日が日曜、祝日の場合はその翌日。なお、10月1日は開館します。)

## 開学記念日

昭和57年4月2日(金)～4月10日(土)

昭和57年8月9日(月)～8月14日(土)

昭和57年12月27日(月)～12月28日(火)

昭和58年1月4日(火)～1月6日(木)

昭和58年3月2日(木)～3月19日(土)

## 4. 休館日

日曜、祝日、年末年始

## オンライン情報検索についてのお知らせ

## — 中央図書館 —

中央図書館では、昭和56年4月から「JOIS」によるオンライン情報検索サービスを行っていますが、このたび同システムのサービス料金が別表1)の通り改定されましたのでお知らせします。また、全てのファイルが月曜から金曜まで利用できるようになりましたので併せてお知らせします。

なお、「DIALOG」によるオンライン情報検索サービスも本年5月から開始しました。接続時間及び主なファイルの使用料金等は別表2)の通りです。この使用料金等に取扱手数料と通信回線使用料とを加算したものが利用料金となります。利用の範囲を校費支弁によるものに限り、上・下半期に移算請求によって精

算することなどは「JOIS」の場合と同様です。

中央図書館のオンライン情報検索サービスは参考調査掛（内線 2454, 2464）が担当しています。

## 別表 1)

## 「JOIS」サービス料金

## 1. オンライン料金

データベース名	ファイル接続料金	オフライン料金		
		手配料金	回答出力料金	
			Aタイプ(抄録付)	Fタイプ(抄録無)
JICST	210円/分	500円/回	35円/件	17円/件
JMEDICINE	210円/分	500円/回	27円/件	17円/件
JCLEARING	210円/分	500円/回	17円/件	17円/件
JTERM	210円/分	—	—	—
JCATALOG	210円/分	—	—	—
MEDLINE	210円/分	500円/回	30円/件	20円/件
CASEARCH	310円/分	500円/回	—	42円/件
TOXLINE	320円/分	500円/回	48円/件	30円/件
BIOSIS	311円/分	500円/回	—	17円/件
CAB	337円/分	500円/回	53円/件	35円/件
MESH	210円/分	—	—	—
CASNAME	310円/分	—	—	—

Aタイプ：抄録付き全項目 Fタイプ：抄録なし全項目

## 2. ユーザー SDI 料金

(注) JMEDICINE は新規

データベース名	基本料金	回答出力料金
JICST	1,630円/1検索	35円/件
JMEDICINE	1,630円/1検索	27円/件
MEDLINE	1,630円/1検索	30円/件
CASEARCH	1,630円/1検索	42円/件

## 3. その他のオンライン料金

項目	料金
質問登録料金(1質問当り)	25円/日
オンライン複写申込接続料金	90円/分
会話退避料金	360円/回
NEWS	無料

## 別表 2)

## 「DIALOG」オンライン情報検索

## A サービス時間(中央図書館における利用時間)

月曜 14時～17時 火～金曜 9時～12時, 14時～17時 土曜 9時～10時

## B サービス料金

データベース名	データベース 使用料 /時	オフラインプリント (全レコード) /件	オフラインプリント (抄録なし) /件
ERIC	25 <sup>フル</sup>	0.10 <sup>フル</sup>	0.05 <sup>フル</sup>
CA SEARCH	64	0.20(0.10)	0.18(0.10)
BIOSIS	58	0.15	0.075
NTIS	40	0.10	0.5
COMPENDEX	80	0.30(0.20)	0.15(0.10)
INSPEC	75	0.25(0.15)	0.125(0.075)
MEDLINE	35	0.15	0.075

( ) は検索結果をオンラインでタイプした場合に加算される料金です。

## 文 献 検 索 取 扱 内 規

### (趣 旨)

第1条 この内規は、九州大学附属図書館中央図書館（以下「中央図書館」という。）が、本学の教職員の申込みによりオンライン文献検索サービス（以下「文献検索」という。）を利用する場合の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

### (利用の範囲)

第2条 文献検索は、本学の教職員が学術研究のために利用する場合で、かつ、利用料金を学内校費の移算の方法で支払うことができるものに限り利用することができる。

### (方 法)

第3条 文献検索の利用の申込みは、別記様式の文献検索申込書により部局等の図書掛（室）を経由して行う。

### (利用料金)

第4条 利用料金は、文献検索サービス提供者によって定められた額とする。

2 前項の利用料金の額には、通信回線料金及び取扱手数料が加算されるものとする。

第5条 中央図書館は、上・下半期毎に各利用部局等に対して利用料金の移算請求を行う。

### (機器等の管理)

第6条 文献検索に使用する機器及びパスワードの管理は、中央図書館が行う。

### 附 則

1 この内規は、昭和57年4月1日から施行する。

2 JOIS利用事務取扱内規（昭和56年4月1日施行）は廃止する。

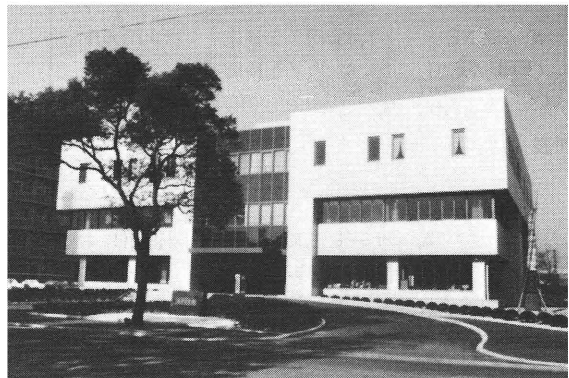
## ((( 学内図書館だより )))

### 新 医 学 図 書 館 の 開 館 に つ い て

去る2月5日(金)から新営の医学図書館が開館しました。新館については本誌第17巻第3号に詳しく紹介されています。

新館の完成に伴い、医療技術短期大学部図書室の図書も混排しました。今後、設備の整った図書館にふさわしく、VTRなどの資料を充実させて行く予定です。

なお、細部についてはまだ整備不十分な点もあり利用者にご不便をかけることがあるかも知れませんが、図書館職員もさらに努力しますので、よろしくご協力をお願いします。



(医学分館)

## ((( 図 書 館 統 計 )))

### 文 献 複 写 利 用 統 計

大学図書館における学術文献の相互利用（閲覧・複写・貸借）は年々増加しており、中でも複写による

利用は学内・学外を問わず増え続けている。中央図書館の昭和56年度文献複写統計は別表1)の通りである(前年度比:枚数・金額20%増, 件数2%増)。

また、箱崎地区における文献複写の受付窓口が中央図書館のみであるために、学部等から借用した資料冊数は別表2)に示した(昨年度比:16%増)。学部図書掛(室)のご協力に感謝する次第である。

(中央図書館 相互利用掛)

昭和56年度 文献複写統計

中央図書館

種目 費目	電子複写			引伸			マイクロフィッシュ			合計			
	件数	枚数	金額	件数	枚数	金額	件数	枚数	金額	件数	枚数	金額	
窓口受付	学内私費	720	9,241	369,640	17	503	52,980				737	9,744	422,620
	学外私費	1,418	53,675	2,639,915	5	141	21,490				1,423	53,816	2,661,405
	依頼私費	428	10,059	532,951	3	43	6,593	2	307	7,095	433	10,409	546,639
大学間振替	学外私費	1,182	14,631	797,005	2	156	14,270	1	3	1,365	1,185	14,790	812,640
	学外校費	5,249	73,863	3,907,270				2	31	12,425	5,251	73,894	3,919,695
	依頼校費	568	11,946	626,377							568	11,946	626,377
納告によるもの	254	2,432	132,140							254	2,432	132,140	
学内移算	2,003	17,308	433,520	72	9,225	537,540	1	161	45,080	2,076	26,694	1,016,140	
B L L D	30	498	69,150							30	498	69,150	
合計	11,852	193,653	9,507,968	99	10,068	632,873	6	502	65,965	11,957	204,223	10,206,806	

昭和56年度 文献複写のための学部資料借用統計

中央図書館

種別 部局	借用					種別 部局	借用				
	洋雑誌	和雑誌	単行本	計	全比率		洋雑誌	和雑誌	単行本	計	全比率
文学部	282	472	103	857	26%	資源工学科	31	8	2	41	—
法学部	354	109	106	569	18	冶金系学科	210	24		234	—
経済学部	35	47	38	120	4	造船学科	21			21	—
教育学部	190	40	17	247	8	航空工学科	39	2		41	—
工学部	(952)	(119)	(16)	(1,087)	(34)	応用原子核工学科	19			19	—
土木工学科	26	24	1	51	—	共通講座	48	1		49	—
水工土木学科	41	12		53	—	応用力学研究所	119	15	6	140	4.5
建築学科	39	14	2	55	—	生産科学研究所	45			45	1
電気系学科	130	19	3	152	—	大型計算機センター	1	1	1	3	—
機械系学科	97	7	4	108	—	農学部教室	30	23	27	80	2
化学機械工学科	38	1		39	—	理学部教室	40	3	50	93	2.5
応用化学科	213	7	4	224	—	合計	2,048	829	364	3,241	100.0

※ 理・農学部は、教室よりの借用分のみ。

※ ( ) 内は工学部の合計である。

((( 学内マイク )))

温泉治療学研究所図書室の名称変更について

温泉治療学研究所は、本年4月1日から医学部附属癌研究施設と合体し、生体防御医学研究所に改組統合された。これに伴ない、図書室の名称は「生体防御医学研究所図書室」略称「生医研図書室」となった。

— 本学教官著作寄贈図書 —

〈中央図書館〉

文学部中国哲学研究室

荒木教授退休記念中国哲学史研究論集  
葦書房 昭56

真鍋 大覚 (工)

大地の雲映 中日新聞社 昭56

高濱 靖英 (歯)

ホモサピエンス・アメリカーナ  
九州大学出版会 昭57

〈医学分館〉

柳瀬 敏幸 (医)

病気の遺伝学 金原出版 昭56

〈文学部〉

岡村 繁 (文)

對馬藩現存漢籍分類目録 前編  
九州大学文学部 昭55

奥村 三雄 (文)

平曲譜本の研究 桜風社 昭56

川添 昭二

太宰府天満宮連歌史 — 資料と研究 — 1～2  
太宰府顕彰会 昭55～56  
鎌倉文化 新育社 昭53

九州中世史研究 第1～2輯

文献出版 昭53～55

蒙古襲来研究史論 雄山閣 昭52

中世文芸の地方史 平凡社 昭57

中世九州の政治と文化 文献出版 昭56

中野 三敏 (文)

戯作研究 中央公論社 昭56

西谷 正 (文)

韓国文化の源流 金元龍著 西谷正等訳  
学生社 昭56

韓国考古通信 学生社 昭56

藤野 保 (文)

佐賀藩の総合研究 吉川弘文館 昭56

〈経済学部〉

都留大治郎 (経)

家族複合経営の存立条件  
九州大学出版会 昭57

秀村 選三 (経)

守屋舎人日帳 第4巻 文献出版 昭57

〈農学部〉

高橋伊一郎 (農)

輸入農水産物 — 輸入制度と国内流通 —  
農林統計協会 昭57

◆ 会 議

九州地区国立大学図書館協議会 (第12回)

〈とき：昭和57年4月26日 ところ：鹿児島市〉

九州地区国立14大学から35名が参加して開催され、次の協議題について討議された。

1. 外国雑誌購入費 (学内共同利用分) 予算について
  2. 「学術情報システム」における地域センター端末館の拡充推進について
  3. 第29回国立大学図書館協議会総会提出議題について
  4. 次期 (昭和57年度) 国立大学図書館協議会役員館の選出について
  5. 次期当番館について
  6. 文献相互利用におけるファクシミリの導入について
  7. 九州地区国立大学図書館相互間の職員の交流について
  8. 昭和57年度九州地区国立大学図書館実務者連絡会議について
- なお、来年度地区協議会の当番館は、九州工業大学に決定した。

九州地区大学図書館協議会総会 (第33回)

〈とき：昭和57年4月27日 ところ：鹿児島市〉

本総会は、加盟館45館中43館から94名が参加して開催された。

慣例により当番館の3大学 (鹿児島大学, 鹿児島県立短期大学, 鹿児島経済大学) の中から鹿児島大学附属図書館長を議長に選出, 永年勤続者及び退職者表彰, 昭和56年度の決算報告及び昭和57年度の子算案

等の審議がありそれぞれ承認された。

続いて、「職員の外国語力について」という議題に入り、活発な討論が行われた。

午後からは、九州大学養輪事務部長の「北部九州地区国立大学図書館機械化ネットワークシステムの現状について」と題する講演があった。

なお、本館からは、塚原館長、養輪事務部長、永芳整理課長、長整理課長補佐が出席した。

### 国立大学附属図書館事務部課長会議

〈とき：昭和57年5月21日 ところ：東京医科歯科大学〉

松浦学術国際局長の開会の挨拶に続いて、田保橋情報図書館課長から「大学図書館の当面する諸問題について」具体的な説明が行われた。次いで、「昭和57年度国立大学図書館関係予算の概要等について」勝村情報図書館課長補佐から詳細な説明があったあと、質疑応答が行われた。

午後の会議では、田保橋課長から「昭和56年度学術情報センターシステム開発調査概要等について」一般的な説明があり、続いて、倉橋情報図書館課専門員から「昭和56年度学術情報センターシステム開発調査協力者会議部会（目録システム）報告について」スライドを使って詳細な解説があったあと、学術情報システム等に対する意見交換があった。

なお、この会議は、全国93の国立大学図書館から139名の部課長・事務長が参加して行われ、本学からは、養輪事務部長、長谷川閲覧課長が出席した。

### 福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会

〈とき：昭和57年5月25日 ところ：佐賀市葉がくれ荘〉

本総会は、加盟館39館中36館63名が参加して開催され、当番館である佐賀大学石橋図書館長を議長に選出し、議事が進められた。

1. 昭和56年度決算及び監査報告を承認した。
2. 昭和57年度予算案を承認した。
3. 協議題「地域的な図書館間の相互協力の実施 一第1段階として外国新聞の分担保存について一」について討議が行われた。
4. 昭和56年度地区研究会実施状況について、北部、福岡、南部地区ごとに報告があった。
5. 「大学図書館蔵書目録の機械化について」をテーマに、丸善(株)MASISセンター次長田所一夫氏の講演があった。
6. 昭和57年度理事館に九州歯科大学、監事館に西南女学院短期大学が選出された。

## ((( お知らせ )))

### 改修工事に伴う利用停止について

保存図書館及び文学部収蔵の資料がそれぞれ下記の期間中、改修工事のため利用停止となります。

保存図書館 昭和57年7月1日(木)～昭和57年10月20日(木)

文学部 昭和57年8月16日(月)～昭和58年3月31日(木)

### 昭和57年度九州大学図書系職員語学(ロシア語初級)研修会の実施について

図書系職員を対象として毎年行われる語学研修が本年も下記の通り実施されます。

1. 科目 ロシア語(初級)
2. 日時 7月26日(月)～9月27日(月)



